

公表

## 事業所における自己評価総括表

|                |                     |   |              |
|----------------|---------------------|---|--------------|
| ○事業所名          | こどもサークル東庄（保育所等訪問支援） |   |              |
| ○保護者評価実施期間     | 2025年 12月 17日       |   | 2026年 1月 16日 |
| ○保護者評価有効回答数    | (対象者数)              | 0 | (回答者数) 0     |
| ○従業者評価実施期間     | 2025年 12月 22日       |   | 2026年 1月 23日 |
| ○従業者評価有効回答数    | (対象者数)              | 5 | (回答者数) 5     |
| ○事業者向け自己評価表作成日 | 2026年 1月 23日        |   |              |

## ○ 分析結果

|   | 事業所の強み（※）だと思われること<br>※より強化・充実を図ることが期待されること                 | 工夫していることや意識的に行っている取組等   | さらに充実を図るための取組等  |
|---|--|---|---|
| 1 | 訪問先施設（保育所・学校等）の教職員と密に連携し、集団生活における具体的な支援方法を共有・提案できている。      | 訪問支援終了後、必ず担当の先生と振り返りの時間を設け、その日の児童の様子や効果的だった関わり方について具体的にフィードバックを行っている。 | 口頭での伝達だけでなく、支援のポイントをまとめた「サポートシート」や、学校でそのまま使える視覚支援ツールの提案・提供を行い、訪問先が実践しやすい環境を整える。   |
| 2 | 保護者に対して、訪問先での児童の様子を詳細に報告し、家庭・学校（園）・事業所の三者連携のハブ（結節点）となっている。 | 訪問報告書や連絡帳を活用し、集団の中での児童の頑張りや課題を分かりやすく伝え、家庭での関わり方のヒントを提供している。           | 就学や進級のタイミングを見据え、保護者の不安を軽減するための相談支援を強化するとともに、関係機関担当者会議等への出席を通じて、長期的な視点での支援体制を構築する。 |
| 3 |  |   |   |

|   | 事業所の弱み（※）だと思われること<br>※事業所の課題や改善が必要だと思われること | 事業所として考えている課題の要因等                                       | 改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等  |
|---|--|---|---|
| 1 | 地域における「保育所等訪問支援」制度の認知度向上と、スムーズな受け入れ体制の構築。  | まだ制度の理解が十分でない訪問先施設もあり、支援の目的や役割分担について理解を得るのに時間を要する場合がある。 | 事業所のリーフレットや制度説明資料を活用し、訪問先へ丁寧な説明を行うとともに、実績を積み重ねて信頼関係を築き、地域全体で児童を支えるネットワークを広げていく。 |
| 2 |  |   |   |
| 3 |  |   |   |